

史跡日吉神社境内 宇佐竈殿社保存修理工事について

研究員 古荘 貴也

1. 指定

名 称：日吉神社境内

種 別：史跡

指定年月日：昭和48年10月9日

場 所：滋賀県大津市坂本

比叡山を神体山とする祭祀の場として成立し、延暦寺建立以降はその守護神として発展してきた神社地であり、国宝や重要文化財建造物も所在し、古代の様々な祭祀形態を伝える史跡である。

2. 建物概要

竈殿は下七社のなかに大宮竈殿、二宮竈殿がある。あと百八社のなかに竈殿があり、それがこの宇佐竈殿に当たると思われる。建立年代を示す資料は発見できない。

一間社流見世棚造、柿葺、梁行2.46m、桁行1.75m。自然石礎石立ちで、身舎は丸柱、庇は角柱とし、地長押、内法腰長押、内法長押を廻す。身舎、庇とも柱頂部に舟肘木を組む。三方に縁勾欄を廻し、背面柱筋に脇障子を備える本格的な造りであるにもかかわらず、正面に階を造らず、正面縁板のすぐ下の高さに見世棚を造る、やや変則的な造りである。

3. 工事前の状況

地盤が南東に向かって傾斜しており、礎石・縁石等が一部乱れ、地覆・柱脚部は腐朽し、板壁には隙があき、内陣の床・天井は欠失していた。破風板や軒裏は腐朽劣化により破損が著しかった。高欄、建具は破損が著しく、塗装は概ね剥離していた。柿葺は経年劣化及び腐朽が著しく、漏水により小屋組の腐朽折損が甚だしく、内陣の天井、床板はほぼ全て崩落していた。鋳金物は劣化・欠損が多数みられた。

4. 修理方針

解体修理とした。地盤を整備のうえ礎石等を据え、木部の破損箇所補修を行い、屋根は全面葺替とした。鋳金物は水銀鍍金と焼漆塗装による新補及び補修とした。木口、縁板、箱棟はそれぞれ胡粉塗、弁柄塗、墨塗とした。

当初と思われる番付けが多数残り、桁梁、棟木、舟肘木、化粧垂木等に墨書が見られた。

5. 工事期間

平成24年5月～平成25年3月